TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

あなたがたに平和があるように

ヨハネによる福音書 20 章 1- 23 節

2026 年 4 月 5 日 & 6 日
余沢 武 牧師

I. はじめに

復活祭おめでとうございます！復活祭はキリスト教徒にとって最も大切な日だとされています。今日は、2000 年前のこの日に何が起こったのかを振り返ってみましょう。お祈りしましょう。

II. あなたがたに平和があるように

(1) 行方知れずの亡骸

ヨハネによる福音書 20 章 1～10 節を見ましょう。そこにはこう書かれています。「[1] 週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。[2] そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って、彼らに告げた。『誰かが主を墓から取り去りました。どこに置いたのか、分かりません。』 [3] そこで、ペトロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。[4] 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子のほうが、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。[5] 身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあるのを見たが、中には入らなかった。[6] 続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。[7] イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。[8] それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も中に入って来て、見て、信じた。[9] イエスが死者の中から必ず復活されることを記した聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。[10] それから、この弟子たちは家に帰って行った。」

イエスが現れて、神の国が来ることを宣言しました。イエスは正義の人で愛に満ちた方でした。ある者は彼を神の御子と呼び、ある者はメシアと呼びました。でも権力者たちはイエスを十字架にはりつけにしたのです。

3 日目の日曜日の朝はやく、イエスを介抱していた女性の一人マリアは、イエスの墓が空になっているのに気づきました。彼女がペトロとヨハネに知らせると、二人は墓へと急ぎました。

ペテロは「身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。」それは奇妙な事でした。
なぜなら…泥棒が遺体を盗んだのなら、高価な亜麻布も盗んだはずです。遺体を包んで運ぶほうが、ずっと楽でしょう。イエスがラザロのように起き上がったとしても、それほどきちんと布を解けなかったでしょう。亜麻布がかたわらに置かれ、頭を覆う布は離れた所に丸められていました。まるでイエスの体が蒸発したかのように。

8 節に「先に墓に着いたもう一人の弟子も中に入って来て、見て、信じた」とあります。おそらくその弟子は、イエスが「三日目に復活する」と言ったことを思い出したに違いありません。

(2) 父のもとへ上がる

11～18 節です。「[11] マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中をのぞくと、[12] イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が、一人は頭の方に、一人は足の方に座っているのが見えた。[13] 天使たちが、『女よ、なぜ泣いているのか』と言うと、マリアは言った。『誰かが私の主を取り去りました。どこに置いたのか、分かりません。』[14] こう言って後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。[15] イエスは言われた。『女よ、なぜ泣いているのか。誰を捜しているのか。』マリアは、園の番人だと思って言った。『あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか、どうぞ、おっしゃってください。私が、あの方を引き取ります。』[16] イエスが、『マリア』と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、『ラボニ』と言った。『先生』という意味である。[17] イエスは言われた。『私に触れてはいけない。まだ父のもとへ上っていないのだから。私のきょ

うだいたちのところへ行って、こう言いなさい。『私の父であり、あなたがたの父である方、また、私の神であり、あなたがたの神である方のもとに私は上る』と。」[18] マグダラのマリアは弟子たちのところに行って、『私は主を見ました』と告げ、また、主から言われたことを伝えた。』」

弟子たちが去った後も、マリアは墓に残りました。すると二人の天使と、続いてイエスが現れました。マリアは喜びに満たされ、イエスにしがみついて、決して離そうとしませんでした。

でも、イエスは言いました。「私に触れてはいけない。まだ父のもとへ上っていないのだから。」

しかしなぜなのでしょうか？ 聖書には、イエスが死者をよみがえらせる場面が幾度か描かれています。百人隊長の娘、ナインの少年、そしてイエスの友人ラザロなどです。こういった例には共通点があります。彼らは生き返ってから、例外なく家族と幸せに暮らしたのです。

それがマリアの望みでした。彼女は以前のようにイエスと親密な友情を築きながら、再び共に暮らしたいと願いました。 また再びイエスが去って行くことを望まなかったからです。でも、マリアは間違っていました。イエスが私たちの罪を取り除いてくださったおかげで、今やずっと深い親密な関係を築くことができるようになったのですから。

イエスが聖霊を私たちの心においてくださることによって最も親密な関係を築くことが出来るのです。つまり、イエスに絶えず語りかけて励ましを受け、助けてもらえることが出来るようになるのです。

でも、こう思うかもしれません。「でも自分の汚い思いや意地悪な心がイエスにばれてしまうかもしれないのでは？」 そうです、イエスは父なる神の横に座り、私たちの弁護者になってくださいます。そして、十字架の上で私たちのすべての罪を贖ったことを、父なる神に告げてくださるのです！

旧約聖書には、預言者エリシャとその僕が敵軍に囲まれた話が書かれています。僕はパニックに陥りました。エリシャは神に、僕の目を開いてくださるように祈りました。すると僕は山が火の馬と戦車で覆われているのを見ました。そこには彼らを守ろうとする敵軍の何倍もの天使の軍勢が広がっていました。

マリアは、そして私たちも、さらに素晴らしいものを持つことができるのです。それはマリアに宿る神,御子イエスご自身です。そこでイエスは、「私にしがみつくのではなく、私との関係を築きなさい」と言いました。

（3） あなたがたに平和があるように

19～23 節です。「[19] その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。[20] そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。[21] イエスは重ねて言われた。『あなたがたに平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。』[22] そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい。[23] 誰の罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。』」

その晩、イエスは鍵のかかった扉を通り抜け、『あなたがたに平和があるように』と二度言われました。それはイエスが私たちの罪を償うために死んでくださったおかげで、私たちはもはや神と「戦っている」のではなく、神と「平和」な関係にあることを強調しているのです。私たちは神の好意と祝福とともに、「真の平和」を得て生きることができるのです。

私たちはこう問いかけるかもしれません。「どうすれば真の平和を得て、神の好意と祝福を生きることができるだろうか…」
私がまだ理想の結婚生活や、理想の人間関係を築けていないとしたら？
まだ欲しい物や、必要なお金が手に入っていない場合は？
私がまだ夢や成功、自分が望む賞賛を得られていないとしたら？

注目してほしいのは、このことは御子と父なる神との関係を通して与えられる体験だということです。つま

り、「平和と神の好意、祝福があなた方と共にあるように。父なる神が私を遣わされたように、私もあなたがたを遣わします。」とイエスが言われたからです。

イエスは、神によって遣わされたので、「平和」と神の国の祝福を持っていました。なぜなら、イエスは神の本質の延長だったからです。同じように、私たちもまたイエスから遣わされたのです。だからこそ、私たちはイエスの本質の延長として、イエスの代理人としてこの平和をもつことができるのです。

興味深いことに、イエスの生涯を見ると、私たちが必需品だと思う物をイエスは持っていませんでした。

イエスは、私たちが望むような自分の欲望を満たすような理想的な結婚生活や理想的な人間関係を持っていませんでした。私たちがほしがる品々やお金もありませんでした。自分の夢や成功、そして崇拝を得ようとはしませんでした。

その代わり…イエスは神が望むこと全てを信じ、従いました。愛し、仕え、与え、赦しました。 イエスは神の導きに従い、神はイエスのあらゆる必要を満たしてくださいました。 イエスは神の計画を実行するための神の道具となり、人々を赦し、命と平和を与えるために用いられました。

でも全ては、イエスの「信頼と従順さ」ありきでした。昔、チャック・スウィンドル牧師がある話をしてくれました。砂漠で迷子になって、水が飲みたくてどうしようもなくなった男の話です。男は人気のない小屋を見つけました。小屋の陰で休もうとしたとき、錆びた手押し井戸を見つけました。

彼は井戸のところへ行くと、ハンドルを上下に動かし始めました。でも水は出てきません。すると古びた水差しが置かれているのに気づきました。ホコリを払うと、何か書いてありました。「水差しに水が全部入った状態で、水を汲み上げること。帰るまえに水差しを水で一杯にするのを忘れないで。」

男はコルクの栓を抜いてみました。案の定、水がなみなみと入っていました。ここで彼は決断を迫られました。水を飲んで生き延びることを願うべきか、それともメモを信じてポンプに水を注ぎ、冷たい水を必要なだけ手に入れることを願うべきか。

男は水を飲みたくてたまりませんでした。でもメモを書いた人を信じて、水差しを水で満たしました。彼は自分の持っている水、つまり自分の命のすべてをそのポンプに注ぎ込んだのです。彼は指示を信じて、従いました。彼は再びポンプを動かし始めました。
キーッキーッ、キーッキーッ、キーッキーッ。何も出てきません。

彼はポンプを漕ぎ続けました。キーッ、キーッ、キーッ。ポトリポトリと水が滴り始めました。それから細い流れになり、水が勢いよく噴き出ました。彼はゴクゴクと水を飲み、水差しを満たし、こう書き添えました。「信じることだ。必ずうまくいく。必要なものをすべて得るには、まずすべてを捧げるんだ。」 これがまさにイエスの生き方でした。

神は御子イエスを遣わされました。イエスは心から神を信頼し、神に従い、私たちが当然必要だと考えるものを自ら進んで手放しました。イエスは神の祝福と愛顧に満ちた「真の平和」を生きた唯一の人でした。 彼の人生は人が生きうる最も愛に満ち、最も喜びにあふれ、最も充実し、最も平和な人生です。

そして、イエスの生涯によって、私たちも今この生き方をもつことができるのです。

イエスが弟子たちに御霊を吹きかけられたように、イエスは弟子たちと私たちに聖霊を与えてくれました。そして、同じことをするようにと、私たちをイエスと共に遣わしておられます。神を完全に信頼し、従い、必要だと思っていることを喜んで手放すように。

もし私たちがそのようにするなら、愛顧と祝福に満ちた人生、すなわちイエスと共に、最も愛に満ち、最も喜びにあふれ、最も充実し、平和な人生を送れるのです。

それだけではありません。私たちの生き方を通して、他の人々もまた、そのような人生を送ることができるのです。これこそがイエスの復活の真髄であり、イエスがマリアと私たちすべてに与えたいと願っているものです。

そして、メッセージを受け入れた人々は、必ずその人の全ての罪が赦されます。一方で、まだ罪が赦されていない、あるいはまだ罪が残っている人々には、イエスへの信仰を持つよう励まし続ける必要があります。

あなたはイエスを信じ、完全に信頼する決意をしましたか？　ぜひそうしてください。イエスと共に歩む愛に満ちた、満ち足りた、平和な人生を経験してください。今日からこの新しい人生を受け入れることをお勧めします。

復活祭おめでとう！

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018



キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/s1426jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 301
賜物発見クラス
4 月 12(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 201 まで修了した TBC メンバーの方

★クラス 210
スモールグループについて知ろう！
4 月 19(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 101
教会員になるためのクラス
5 月 17(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラス申し込み: https://t-b-c.us/classes